

櫻だより



氷見市立北部中学校
校長室から
令和7年4月17日

梅か桜か

先日、ラジオを聴いていた時のこと。

パーソナリティは、本校出身の TAIHEI さんとバンド仲間の Yonce さん。

リスナーから次のような内容の質問

「最近のテレビ報道を見ていると、桜がもてはやされすぎではないか、と思う。

確かに桜の花は、満開になると見事。

でも、古来日本人が愛でてきた梅の花もきれいだし、もっと注目されているのでは。

お二人は、梅と桜とどちらが好きですか？」

質問に対して二人は、「あまのじゃくな考えだね」「確かに開花で大騒ぎは過剰報道かな」

「梅は周りの木が寂しい時に咲くから映えるよな」「まあ、桜が満開になったらすごいよね」

「散るときの桜吹雪もいいなあ」とトーク。

最後に TAIHEI さんは「まあ自分の名前に桜があるから、一応俺は桜にしようかな」

で、Yonce さんは、「じゃあ俺は出身中学が梅中だったから、梅にしよう」と。

梅か桜かという本質的な観点とは別の観点でトークは終了した。

奈良時代の花見と言えば、梅の観賞だったとか。

万葉集に詠まれた梅の歌は 110 首。桜の歌は 43 首だから、桜の倍以上の歌が詠まれた。

平安時代になって桜ブームが到来し、古今和歌集では梅 18 首に対し、桜が 70 首に。

「久方の ひかりのどけき春の日に しづ心なく 花の散るらむ」も桜の花。

秀吉が「吉野の花見」を行った頃から、宴会型の花見が始まったとか。

堤防に桜の木を植えて、花見客で堤防を固める治水の策は、全国各地に広がった。

梅も桜もよさがある。どちらがいいかと尋ねられたら、どちらもよいと答えたい。

相田みつをさんは、花に関するたくさんの言葉を残している。

「いのちいっぱい じぶんの花を」

「花はただ咲く ただひたすらに」

「名もない草も実をつける いのちいっぱい 自分の花を咲かせて」

梅や桜だけではない。春の花のコブシもモクレンも、命いっぱい、自分の花を咲かせる。

コブシに向かって「桜のような花を咲かせろ」と叫んでも、コブシはコブシの花を咲かせる。

人も同じだ。他人を羨んでも他人の花は咲かせられない。

自分の花を命いっぱい、ただひたすらに咲かせていきたいものである。

そして、私たち教育に携わる者は、子供たちが自分の花を咲かせられるよう、指導・支援をしていかねばならないと思う。

そんなことを思ったラジオでした。（そんな深く考える番組ではないのだが・・・）

さ、いのちいっぱい自分の花を咲かせていきましょう。